



つらつらせんがく 熟々浅学



— 日々の心遣い —

先月 18 日、教祖は 228 回目のお誕生日をお迎えになられました。

今月 16 日、アメリカ婦人会の総会が開催されます。多くの婦人会員が参加していただき、実り多き総会になることを願っています。

また、月末には学生会春季練成会の開催予定です。一人でも多くの学生に参加してもらいたいと思っています。どうぞ周囲の高校生、大学生たちにお声がけをお願い致します。

更には、来月 20 日に、少年会アメリカ団おつとめまなび総会が開催されます。多くの少年会員に参加してもらいたいと思います。そして、この総会を通して、将来、立派なよ心ぼくになってもらえるように、育成会員の皆様の多大なるご協力をお願いします。特に、準備、当日、そして総会後の行事・片付けに大勢の人々のお手伝いが必要になります。どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、以前、管内のある会長から興味深い話を聞きました。

その会長の所属している直属教会の詰所には、時折、教外の高校のスポーツ部が宿舎として利用することがあるそうです。

天理高校は部活動が盛んですから、日本各地の高校のスポーツ部が天理高校のスポーツ部との練習試合のために天理市にやって来ます。その際、いろいろな直属教会の詰所を宿舎として利用することがあります。

その会長の直属教会詰所には、サッカー部の高校生たちが宿泊することが多いそうです。

そして、その詰所の勤務者の皆さんは、宿泊するサッカー部が強いかわ弱いか、すぐに分かるということです。

何故すぐ分かるのか。

ご存知のように、日本では家に上がる前に靴を脱ぎます。アメリカやカナダ国内でも日本人や日系人家庭では靴を脱いで家に入る（上がる）習慣があります。

その詰所でも玄関では靴を脱いで上がりますので、来訪したサッカー部の高校生たちは詰所の玄関先で靴を脱ぐことになります。その靴の脱ぎ方が、そのサッカー部の強さを教えてくれるというのです。

大勢の高校生たちが詰所に入った後、靴が整頓されて脱いだであるサッカー部は強いとのこと。反対に、靴が散乱して脱いだであるサッカー部は弱いとのこと。

これを解釈しますと、サッカー部としての普段の心構えが靴の脱ぎ方に現れていると言えます。その心構えは普段の練習にも反映される、チームワークの良し悪しに影響を与えているのではないのでしょうか。つまり、同じ目標に向けて心が一つになっているか否かが、靴を脱ぐという何気ない行為に象徴されているのだと思うのです。もちろん、玄関先に靴を揃えて脱ぐだけでチームが強くなるわけはありませんが、靴の脱ぎ方が、チームの規律の良さや結束力を示唆しているのではないのでしょうか。

このようなことを考えますと、普段の生活

態度は極めて大切であると言えます。日々の物事をいかに丁寧に行えるかによって、その人の心の強さや性格も判明するのではないのでしょうか。

大リーグ（以下、MLB）のロサンゼルス・ドジャースに所属する大谷翔平選手は、投手と打者を行う二刀流の選手として、MLBの歴史を塗り替える活躍を続けています。

SNSなどでの情報でしか私は知りませんが、チームメイトを驚かせているのは、彼の妥協のない練習量と、試合前の徹底した準備ルーティンのようです。それは、単なる技術練習を超えた「試合に臨む姿勢」そのものです。練習量はかなり多いそうで、バッターとしての練習量だけでも充分な量を熟（こな）しているのに、ピッチャーとしての練習量も半端ではないようです。

そのような妥協のない練習を継続できるのは、普段の「心遣い」が土台にあるからだとは私は思っています。ワールドシリーズで優勝したいという強い願いはもちろんのこと、自分のパフォーマンスを高めることがチームの勝利に繋がると信じ、日々の鍛錬を積み重ねる志と努力が大切だと思うのです。

しかし、それだけではありません。大谷選手はチームメイトへの気遣いも素晴らしく、また、一流選手が敬遠しがちな練習中の球拾いや、球場に落ちている小さなゴミを拾ってポケットにしまうとといった姿もしばしば話題になります。

その他、相手チームへのリスペクトを忘れず、最初の打席に入る前には、対戦相手の監督に対して、ヘルメットの鏝（つば）に軽く手を添えて会釈をすることは有名です。

私が思うには、このような相手チームへのリスペクトができるのは、相手があつての野球というゲームが成立すること、また、お互いに切磋琢磨してゲームを展開することに意味があるからと知っているからではないかと。

また、ゲーム観戦に来ている観客に素晴らしいゲームを見せることを大切にしているのではないかとも思えます。そこには、観客にも喜んでもらえるゲームをしたいという気持ちがあるのではないのでしょうか。

常にこのような態度で行動ができるのは、彼の中に「感謝」や「リスペクト」という心が常に備わっているからであり、その心があるからこそ、過酷な練習にも妥協なく取り組めるのだと思うのです。

私たちの信仰も、普段の心遣い、心掛けが大切です。例えば、「ひのきしん」です。掃除をする際に、親神様の御守護に対する感謝の心を持って行えば「ひのきしん」になりますが、その心が無ければただの“作業”になってしまいます。日々の基本的な「動作」に心を込めて丁寧に行う習慣こそが、大きな「行動（信仰実践）」に心を込められるかどうかの分かれ目になるように思えます。

この心を込めることができるようになるには、普段からの心遣いが影響してくると思うのです。つまり、前述の強いサッカー部のような普段の生活の中での基本的な動作とかマナーと言われる行動原理が影響するのだらうと思うのです。普段からの心遣いが言動に心を込められるか否かの分かれ目があるように思えます。

天理教を「信仰している」のであれば、その一つひとつの言動に御教えに則った心を込めることが大切です。それは親神様の御守護に感謝し、陽気ぐらし実現に向けて、日々の何気ない日常生活の中に信仰を具現化していくことに他ならないのだと思うのです。

皆さんは、どのように思われますか。

深谷 洋

立教189年4月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長に代わり主事田中知義慎んで申し上げます。

親神様には、紋型ないところから、この世人間をお創めくだされ、旬刻限の到来と共に、教祖をやしろにこの世の表に現れて、だめの御教えをお啓きになられ、教祖五十年のひながたをお遺しく下さいました。私共がひながたを頼りに、陽気ぐらしへの成人の道を勇んで歩ませていただいておりますことは、誠に有難く勿体ない限りでございます。その中でもこの月は、寛政十年四月十八日、御存命の教祖がお生まれ遊ばされた目出度い由縁の月に当たりますので、今日の佳き日に、ぢばの理を頂戴して、只今から、おつとめ奉仕者一同、慶びの心をもって、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめて、当伝道庁の四月月次祭を執り行わせていただき、併せて、教祖の二百二十八回目のお誕生日をお祝いさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみに寄り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護を頂戴したいと伏し拝む状をも御覧くださいます、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月は、教祖誕生祭参拝に、管内より大勢の教友が帰参しておりますが、それぞれがぢばの理を頂戴し、土地所に戻りましてからは、尚も一層勇み心でたすけの御用をつとめられますようお願い申し上げます。

また、今月から来月にかけて、管内各地でひのきしんデーを開催しますが、にをいがけの一助にもなりますようお願い申し上げます。

私共は、世界にお見せくださる様々な状況を鑑みて、陽気ぐらし世界実現を急ぎ込まれる親神様の思召を改めて思案し、たすけ一条・つとめ一条を心に抱いて、教祖のひながたを頼りに、更なる心の成人に励んで道の伸展に努め、また、次世代に道を繋げたいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいます、世界の人々が互いにたすけ合って暮らせる世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

4 月月次祭神殿講話

本陸東教会長

富澤 ポール



本日は、世界中の大勢の方々のためのお祈り、そして教祖のご誕生を祝うため、お集まりいただきまして、ありがとうございます。私の思うところを皆様にお話しする機会をいただきましたので、どうぞご清聴お願い申し上げます。

ある時、娘と私は、オンラインで見つけた動画を通して、こどもおちばがえりの思い出を振り返っていました。夜ごとに行われるパレードや、さまざまなバンドの演奏、そして世界各国から集まったようぼくのにぎわいを懐かしく思い出し、毎晩の演奏のために、バンドのメンバーやスタッフの方々を重ねてこられた多大な準備とたゆまぬ練習に思いを馳せました。

彼らの笑顔は、見る人すべてに大きな喜びを与え、きつと親神様や教祖にも大変お喜びいただけの美しい光景であつたに違いありません。

また、世界各地から集まった人々がそれぞれの装いで参加している姿を見て、私たちは皆、元のちばに帰る兄弟姉妹であるという実感が一層深まりました。そして、自分たちがとても大きなつながりの輪の中にいること、世界のさまざまな地域から集まったにもかかわらず、私たちはまるで兄弟姉妹のような一つの家族として、特別な体験を共にしているように感じました。

親里では、温かく迎えてくださっているおかげで、いつも私は「ここが自分の帰る場所だ」と思うようになります。

『教祖伝逸話篇』第195話「御苦労さま」にあるように

教祖程、へだてのない、お慈悲の深い方はなかった。どんな人にお会いなされても、少しもへだて心がない。どんな人がお屋敷へ来ても、可愛い我が子供と思うておいでになる。どんな偉い人が来ても、

「御苦労さま。」
物もらいが来ても、

「御苦労さま。」
その御態度なり言葉使いが、少しも変わらない。皆、可愛い我が子と思うておいでになる。それで、どんな人でも皆、一度、教祖にお会いさせてもらおうと、教祖の親心に打たれて、一遍に心を入れ替えた。教祖のお慈悲の心に打たれたのである。

教祖は、私たちがどのように生きるべきかの手本をお示しくくださり、すべての人に対して、敬いの心と思いやり、そして真心をもって接することの大切さを教えてくださいました。

これまで少年会の一員として過ごしてきた年月を振り返ると、多くの兄弟姉妹との深い絆の尊さを実感しています。

アメリカで再会するよりも、こどもおちばがえりでおちばに帰った際に再会することの方が多くにもかかわらず、東海岸と西海岸にまたがる友情は、生涯にわたって続いています。親となった今、再びおちばに帰り、同じように子どもを連れてきている旧友と再会できることは、世代をまたがるありがたい経験だと感じます。

子どもたちは暑さや長い移動に対し不満の言葉を発しますが、これから訪れる喜びを知っているからこそ、私たちは笑顔で応えることができます。

そして最終日、どんなに疲れていても、子どもたちは決まってこう尋ねます。「来年も来ていび？」と。娘が次にいつ帰れるのかを尋ねるたびに、私は親神様と教祖が、その成長した姿を楽しみに待ってくださっていることを伝えていきます。その経験が、娘の心に大きく良い影響を残したことは明らかです。少年会インターナショナルひのきしん隊での体験を通して、娘は世界中にできた友情の大切さを強く感じたようです。

また、スタッフの方々の温かさや、皆が安心して参加できるように尽くしてくださっている姿にも、深く感謝していました。私自身のこれまでのおちばがえりを振り返ってみても、最も心に残っているのは、人とのつながり、そして長年にわたって続いているかけがえのない絆であると改めて感じています。

最近、YouTube がお薦めビデオを通して、心温まる素敵な動画を流してくれました。韓国で小さな本格的な食堂を巡るイギリス人男性の動

画です。ある店で、その店主がまるで家族のように彼を迎え入れ、皿いっぱい料理を盛りつけながら、「お客さん一人ひとりに自分の息子二人を重ねて見ているのです」と語っていました。彼はその優しさに深く心を打たれ、感謝の言葉さえすぐには見つからないほどでした。店を出るとき、近くにいた見知らぬ人がただ微笑んで、「あの方、本当に素敵ですよ」と声をかけてくれました。

私は、こうした心温まる動画が、いつものドジャースのハイライトと一緒にフィードに混ざって流れてくることに、とても感謝しています。それが私の心を豊かにしてくれているように感じます。

少し話がそれてしまいましたが、その動画や同様の作品を見て、子どもの頃のこともおちばがえりの思い出や、その後を訪れた母の実家でもある東本大教会での記憶が鮮やかによみがえりました。

東本大教会は、私たちにとって単なる教会ではなく、母の生まれ育った家でもありました。訪れるたびに、参拝場で明るく「お帰りなさい！」と大きな笑い声で迎えてくださる女性の姿がありました。その親しみある挨拶は、子どもの頃から大人になってもずっと私に寄り添い続け、祖母が亡くなった後でさえも、東本は単なる旅の目的地ではなく「帰る場所」として感じられるところでした。

東本ではいつも懐かしい顔に出会い、温かく

迎え入れていただきましたが、それはひとえに教会のホストファミリープログラムのおかげでもありました。このプログラムは、日本からアメリカへ来る学生たち（主に教会長の子弟や東本の信者の子どもたち）と、ロサンゼルスの中ホストファミリーを結びつけてくれます。その中で私は、東本の皆さまと深い絆を築くことができました。そのような世界をはばたくつながりを育んだのは、教会に流れる「親心」であり、そのおかげで私たちの旅行は、本当の意味での「ふるさとへの旅」となっていたのです。

おおきな隔たりがあったとしても、私の両親と東本の皆さまが共有していたビジョンによって、乗り越えることができました。アメリカにある私たちの教会と東本をつなぐ橋を築くことに尽力され、その壮大な取り組みは、多くの方々のたゆまぬ支えと協力によってなされた事に違いありません。

同様にアメリカ・カナダ団を長年にわたって維持できてきたこと自体が、協力の力の証だと感じます。毎年、綿密な計画と献身的な支援があつてこそ、おちばがえりへ多くの人に集まっていただけののだと思います。

私たちは、弓削奥さん、伊藤先生、西リンダ先生とお母様、ウェスリーさん、そしてスタッフの皆さま全員のご尽力に、心より感謝しています。その献身と、当時から現在に至るまで数え切れないほどのスタッフの皆さまの支えにより、参加するすべての人が、すぐに「家族」



SOULFIRE


TENRIKYO FAITH GATHERING

2026年11月14日(土)

10:30 AM - 16:00 PM

Tenrikyo Mission Headquarters of America & Canada
2727 East First Street, Los Angeles, CA 90033



 @tenrikyo.faith.conference

<https://tenrikyoamericacana.org/tfc>

 www.facebook.com/soulfiretfc/

のような絆を感じられるようになってきているのだと思います。

特に印象に残っている思い出の一つは、弓削奥さんや伊藤先生が私たちと一緒にプールに飛び込み、あの冷たい水の楽しみを共に分かち合ってくださいました。暑い夏のおちばがえりの中で、プールが最も楽しい場所であることを、皆が自然に分かち合っていたのだと思います。スタッフとしてつとめさせていただく中、このおちばがえりがもたらす純粋な喜びを何度も目にしてきました。

特に心に残っているのは、ある若い参加者が参拝場で祖母に出会った瞬間です。彼女にとっては初めてのおちばがえりであり、祖母と初めて会う機会でもありました。彼女が人混みをかき分けながらおばあちゃんに駆け寄り、抱きしめる姿は、今でも忘れられない大切な記憶です。

また、パンデミック以来初めて参加されたスタッフの方が、参拝場でお祈りの後、ご両親と涙ながらに抱き合っていた場面も、非常に心を打たれるものでした。お父さんは普段どおりの落ち着いた雰囲気を保っておられました。きっとアメリカから無事におやさとお帰ってきた娘の姿を見て、深い喜びと安堵を感じておられたに違いありません。

またある時、祖母たちのグループが孫たちのためにおちばがえりを企画している姿を見ると、この行事にどれほどの努力が注がれているのかを改めて実感しました。この道を広め、おちばがえりの大切さを伝えるために休むことなく尽力されている方々に、心から感銘を受けています。

私自身、高校生の頃に父と一緒に参加した特別な旅のことを思い出しました。それは、父の信仰的なルーツをたどる教会巡回の旅で、父の実家の教会につながる各地の部内教会を訪ねるものでした。

その旅には、もともと父の家族に教えを伝えてくださった布教師の方も同行されていました。彼女は70代で、訪問した多くの教会のことや、そこで絶えずふるまわれたお茶やお餅のことも記憶に残っていますが、最も強く心に残っているのは、彼女の運転でした。とても慎重な運転で、ほとんど一速のまま走っていたのではないかと思います。

しかし今思えば、そのゆっくりとしたペースには意図があったのだと思います。それは私たちの間にある距離を少しずつ埋め、同じ信仰と伝統を海を越えて共有しているのだということを、訪問先の教会の方々から自然に伝えるためだったのではないのでしょうか。

おふでさき第4号62では、親神様は次のように教えてくださっています。

このよふを初た神の事ならば

せかい一れつみなわがこなり

第4号79では、

せかいぢう神のたあにハみなわがこ

一れつハみなをやとをも糸よ



第8号43では、

せかいぢういちれつわみなきよたいや

たにんとゆうわさらにないぞや

まるでチームビルディングのような巡回の旅でした。各教会を訪ねることで、その方は、私たちがそれぞれ別々に歩んでいるのではないことを示してくださいました。私たちは同じ困難と喜びを共有しており、そのように対話の道を開くことによって、共に一つの使命に向かって歩むためのつながりを築いてくださったのだと思います。

今年は大きな節目の年であり、少年会アメリカ・カナダ団は6月に第50回おつとめ総会を迎え、その直後の7月には恒例のこどもおちばがえりが予定されています。これまで歩みを続けてこられた先人の方々、そして現在も支えてくださっている皆さまの献身によって、ここまで来ることができました。

この少年会を今後さらに50年続けていくためには、より一層の協力体制の強化が必要です。中心となるメンバーは常に力を尽くしてくださいますが、さらなるご支援があれば、未来の安定した歩みに大きく寄与することになると感じております。

以上、お願いを申し上げます、講話を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。





伝道庁連絡



4 月 月次祭

祭主 田中知義
 扈者 川上和海 森下レイモンド
 賛者 清水ロバート 上杉浩司
 指図方 岡崎マロン
 神殿講話 富澤ポール（英）

教会事情

サンフランシスコ教会
 教会ふしんの為、一時的な住所変更（～2027/8/28 まで）
 ジョイアス布教所
 布教所ふしんの為、一時的な住所変更（～夏頃まで）
 フェローシップオブジョイ布教所
 住所・電話番号変更 所長携帯電話番号 FAX は撤去

全教一斉ひのきしんデー

ひのきしんデーを実施された地区の担当者は、実施報告書を伝道庁（担当：増野）までご提出下さい。

タコマ地区



ガーデナ地区



修養科スペイン語クラスについて

9月1日から11月27日まで、修養科スペイン語クラスがおちばにて開講されることになりましたので、お知らせします。日本国査証の必要な志願者は、お早めに伝道庁にお知らせください。

教会長資格検定講習会について

例年9月27日から、5名以上の受講者がいる場合に開講している教会長資格検定講習会英語クラスの日程が変更され、本年より10月27日から開講することになりました。

第 86 回アメリカ修養会

第 86 回アメリカ修養会が、2026 年 6 月 21 日（日）から 7 月 18 日（土）まで開講予定です。開講約 1 ヶ月前（5 月 17 日）までに、英語・日本語クラスは 2 名以上、スペイン語クラスは 5 名以上の申し込みが

ある場合に限り開催予定です。

TSA 春季練成会

TSA 春季練成会が 5 月 23 日（土）～ 25 日（月）の日程でアメリカ伝道庁にて開催されます。

内容：講義、ワークショップ、ひのきしん

天理教語学院（TLI）日本語科出願

出願資格

- 12年以上の正規の学校教育を修了していること
 - 日本語能力試験 N5 資格の所持していること
- 出願に必要な書類として願書と共に日本語能力試験 N5 の合格証明書が必要となります。
- TLI では、日本語能力 N5 を有しない出願予定者に対し、出願前の 5 月から日本語科が提案する教材を用いた自習機会を設け、8 月末までに実力認定試験を受験していただく予定です。
 - 実力認定試験の結果、TLI が N5 相当の日本語能力があると認定した場合に出願を受理する形とし、出願自体を妨げないように便宜を図る予定です。

願書の配布について：

- 願書は 4 月 25 日よりダウンロード配布が開始されています。

メモリアルデー墓参

伝道庁では、5 月 25 日（月）午前 10 時の参拝後、エバグリーン墓地へ墓参を致します。

アメリカれつ会新規扶育生募集

2026 年のアメリカれつ会新規扶育生の募集を開始します。対象は、管内教会長、布教所長、出張所長の子弟子女で、大学入学が決まっている方です。扶育を希望される方は、伝道庁に願書を用意しておりますので、ご連絡下さい。願書締切は、6 月 30 日（火）です。新規扶育生は 8 月伝道庁月次祭時に発表致します。尚、2、3、4 年目の扶育生は、願書の提出はありませんが、休学、転校等があった場合、8 月 31 日までに必ず伝道庁までお知らせ下さい。

各会連絡

布教委員会

・教会長・布教所長・出張所長による伝道庁月次祭当番をおつとめ頂き、有難うございます。以下に 7 月までの当番をお知らせ致します。

6 月：北井則子、伊藤錦平
 7 月：弓削ロバート、中川一二三

教化育成委員会

- ・TSA 春季練成会 5月23日(土)～25日(月)
内容：講義、ワークショップ、ひのきしん
- ・おやさと練成会
おやさと練成会に向けて、アメリカのおやさと練成会委員会のスタッフと保護者、ハワイのスタッフや保護者と合同オリエンテーションを、5月17日に行います。(Zoom)

広報委員会

- ・各地で活動されている方々の情報を「陽気ぐらしだより / Joyous Life Here & There」として「一れつ・ニュースレター」に掲載し、管内の皆様と共有させていただきます。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先

川上 (kamishuyo@hotmail.com)

林 (takhayashi@gmail.com)

- ・伝道庁ホームページは、管内の皆様にご活用頂けるように作成し、常にアップデートを努めており、「Our Guide to Jiba」が更にアップデートされております。是非、伝道庁ホームページをご覧ください。是非、伝道庁ホームページをご覧ください。是非、伝道庁ホームページをご覧ください。是非、伝道庁ホームページをご覧ください。

Domain Name: TenrikyoAmericaCanada.org



婦人会

- ・サクラメント地区総会
6月6日(土) 午前11時
於：ハイサクラメント教会

少年会

- ・少年少女練成会、及びおつとめまなび総会を6月19日(金)、6月20日(土)に伝道庁にて開催します。練成会ではおつとめについて学び、女鳴物、笛、小鼓等の練習もします。大勢の参加者をご守護頂けるよう、お声がけをお願い致します。詳細は申込用紙をご確認ください。
- ・こどもおちばがえり・海外少年ひのきしん隊の

- 申込みの締切は5月17日です。ご帰参の方はご提出ください。
- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、【moto1884@icloud.com】までお知らせ下さい。



青年会

- ・アメリカ青年会総会を8月15日(土) 午前10時30分に、アメリカ伝道庁にて開催します。夜はBBQをします。プログラムに関する詳細は、追ってご連絡させていただきます。

NYセンター

- ・4/18 少年会鼓笛演奏
フラッシング・メドウ・コロナパークでの桜祭り



- ・5/24 ファミリーBBQ (ニューヨーク青年会主催)

ニューヨーク地区 第21回さくら祭り

4月18日

4月18日、ニューヨーク地区少年会の鼓笛隊は、ニューヨーク日系人会が主催する、フラッシング・メドウズ・コロナ・パークで開催された第21回さくら祭りに出演しました。

当日は、メンバー23名とスタッフ11名が参加し、「ミッキーマウス・マーチ」「スキヤキ(上を向いて歩こう)」「スウィート・キャロライン」の3曲を演奏しました。満開の桜に囲まれて、メンバー一同は喜びにあふれた演奏を披露しました。

演奏後には、ケーキとピクニックで教祖のお誕生日をお祝いすることができました。



 <p>WE'RE ONLINE!</p> <p>www.TenrikyoAmericaCanada.org</p> <p>Stay Updated! Scan the QR code with your camera phone.</p>  <p>携帯のカメラでQRコードをスキャンし、アメリカ伝道庁ウェブサイトの最新情報をチェックしてください!</p>	<p>CALENDAR</p>  <p>tenrikyoamericacanada.org/events-calendar</p>	<p>BLOG</p>  <p>tenrikyoamericacanada.org/blog-timeline</p>
<p>NEWSLETTERS</p>  <p>tenrikyoamericacanada.org/publications</p>	<p>SERMONS</p>  <p>tenrikyoamericacanada.org/sermons</p>	<p>OYASAMA-INSPIRED STORIES</p>  <p>tenrikyoamericacanada.org/stories-inspired-by-oyasama</p>

マンザナー巡礼諸宗教合同追悼式典

4月25日

4月25日（土）、カリフォルニア州ローンバイン近郊にあるマンザナー国定史跡にて、第57回マンザナー巡礼が開催されました。マンザナーはロサンゼルスから約4時間の場所であり、第2次世界大戦中、1万1千人以上の日系アメリカ人が急造された木造の兵舎に収容されていた場所です。1942年から1945年にかけて、本教の多くの教友もここに収容されていました。

今回、全米に10か所あった収容所のうちの一つにご家族が収容されていた経験を持つ岡崎マロン先生と弓削ロバート先生が、慰霊碑前で行われた諸宗教合同の追悼式典に参列する機会を得ました。さらに4名の教友と共に、収容中に亡くなられた方々を追悼し、よろづよ八首がとめられました。



全教一斉ひのきしんデー



サクラメント地区



ガーデナ地区



サンディエゴ地区



ハリウッド地区

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

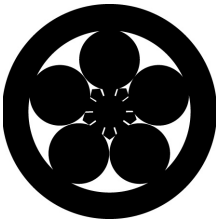
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is God of original and God in Truth-who created thi world and has nurtured and protected us ever since.

God the Parent created human beings so that by seeing us lead the Joyous Life, God could share in our joy. Leading the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children; thus we should realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that we borrow from God the Parent and only our minds truly belong to us; further, through the proper use of our minds, we will be able to lead the Joyous Life.